

「心をかたちに」～言葉と行動、思いやりと支え合い～



緑野

札幌中学校学校だより
令和6年度卒業式号(488号)
令和7年(2025年)
3月17日発行



<http://www.satsunae-j.sapporo-c.ed.jp>

第49回卒業証書授与式にあたって

校長 鈴木 伸和

3月に入り、春の陽気に誘われ草木の芽吹きなど、様々なところで春の始まりを感じるようになってまいりました。本日、PTA会長伊藤様をはじめとするご来賓の皆様、そして、多くの保護者の皆様のご臨席を賜り、本校第49回卒業証書授与式を行えますことに心より感謝を申し上げます。

さて、本日、旅立ちの時を迎えました126名の3年生の皆さん、卒業おめでとうございます。ただいま皆さん一人一人に卒業証書をお渡ししましたが、その卒業証書は、3年間学んできた中学校の課程を修了したことを認めるとともに、9年間の義務教育を修了し、これから自らの力で歩みを進めていく出発点に立ったことを意味するものです。このことをしっかり受け止め、明日からはそれぞれが選んだ道をまっすぐ、力強く、自信をもって進んでいってほしいと思っています。

ここで、皆さんの門出をお祝いし、2つの言葉を贈ります。一つは、「不断前進」という言葉です。これは、現状に満足しないで、努力を続けるということです。

これから皆さんが活躍する時代は、一生涯に渡って学習を必要とする時代です。デジタル化・AI技術の発展により、社会の仕組みや動きが、今までよりも大きく、しかもものすごく速いスピードで変化しています。このような変化の激しい時代、社会に対応していくためには、一生涯に渡り、継続して学んでいくという姿勢がとても大切になってきます。そして、このような時代だからこそ、自分はこのようにしたい、このことを達成したい、といった夢や希望をしっかりとってください。その夢や希望を達成するためには、困難なことに遭遇しても、それに耐え、学びを止めず、一歩前に踏み出していくことが大切です。

もう一つは「出会いを大切にしてほしい」ということです。みなさんはこれまでも多くの人や物事に会ってきたと思います。これから、学ぶ機会が多ければ多いほど、その分様々な多くの「出会い」を経験することになります。学問や生き方、自分が持っている能力を引き出してくれる人たちとの出会い、学びを共にし、自分を応援してくれる人たちとの出会い、また、人ばかりではなく、本や音楽、芸術・スポーツ、自然などとの出会いもきっとたくさんあると思います。

これらの出会いの一つ一つを大切にし、そこから多くのことを吸収し、自分のものとして、視野を広め、幅広い考え方と実践力のある人となってください。さらに、人の痛みのわかる、思いやりのある、豊かな心をもつ人となって人生を歩んで行ってほしいと思っています。

改めまして、保護者の皆様に、一言ご挨拶申し上げます。お子様が、義務教育を終えて巣立つ日を迎えられること、心からお祝い申し上げます。こうして、大きく逞しく成長した姿をご覧になり、お喜びもひとしおかと存じます。お子様のご卒業をお祝い申し上げるとともに、これまでの本校の教育活動へのご理解とご協力に心から感謝を申し上げます。

結びになりますが、本校での学びを終え、卒業するみなさんの今後の活躍を期待するとともに、実りある豊かな人生を歩むことを強く信じて、第49回卒業証書授与式の式辞といたします。

お祝いの言葉

厳しい冬の寒さも和らぎはじめ、東からの薫りに春の訪れを感じる今日の佳き日に旅立ちの日を迎えられた卒業生の皆様、ご卒業、誠におめでとうございませう。在校生を代表し、心よりお祝い申し上げます。いよいよ、先輩方とのお別れのときがやってきました。

今こうして、先輩方の晴れやかな姿を見ると数々の思い出が脳裏を駆け巡ります。いつも先頭に立ち、行事や活動の中で、率先して運営や進行をしてくださる先輩方は、私たちにとって良きお手本であり、頼もしい存在でした。受験生であり、受験勉強が忙しいはずなのに、合唱コンクールや総合学習発表会での団結力や心に響く歌声は圧倒的でした。また、私たちにはなかなか真似することのできない画期的なアイデアをもっているなど、やはり三年生は流石だと実感する機会が多々ありました。部活動の中では常に高い目標を掲げ、それに向けて一生懸命に取り組んでいました。勝ちにこだわり、試合に臨む威風堂々たるその姿からはみなぎる気迫を感じ、息を呑んで勝負の行方を見守ったことは、今の私たちの部活への向き合い方に生きています。また、技術面はもちろん、勝利への喜びや悔しさ、仲間を応援することで得られる絆や信頼を教わりました。これまで、先輩方が築いてきた、佳き校風や素晴らしい伝統を受け継いで、より良い札苗中学校を目指していきます。

卒業生の皆さん、私たちは先輩方の後輩としてこの学校でともに過ごした日々を心から誇りに思います。これまで本当にありがとうございました。これから進む未来に向けて皆様のご活躍を期待するとともに、歩む人生が豊かな人生になることを強く信じ、お別れの言葉とさせていただきます。

令和7年3月14日

在校生代表 小林 莉々果



お別れの言葉

雪解け水が春の日に照らされて輝く季節となりました。本日は、お忙しい中、私たちのためにご臨席くださいました、先生方、保護者の皆様、ご来賓の方々、誠にありがとうございます。

中学1年の春、私たちは期待と不安を胸に、この学び舎の門をくぐりました。小学生から中学生になり少し大人になったような気分で、背筋がピンと伸びていました。3年間はあっという間で、気がついたら卒業を迎えることとなりました。コロナ禍の終盤ではありましたが、マスクをつけて入学し、同級生の顔がわからないままでした。

コロナ禍が終わり、様々な行事が開催されました。例えば、文化祭や、合唱コンクール、体育祭など。これらを通し、私たちは互いを尊重し、絆を深める事ができました。

初めて開催された体育祭では仲間と協力したり、時には励ましあったり、事故なく無事に終わることができました。

待ちに待った修学旅行では、事前学習を活かし、足を踏み入れたことのない土地に学びに行きました。普段は見ることのできない先生方、友人たちの一面を発見するなど学年全体で仲が深まりました。

私たちの学年では時間を見て行動するということができていなく、よく先生方に5分前入室、2分前着席を注意されていました。時間を見て行動しなければいけないのに、なかなか行動にうつせず、先生方を困らせていたときもありました。ですが、目標を立て、自分たちでどのようにしたらいいのかと模索する力が身についたと思います。

中学校生活では体育祭や、合唱コンクール、修学旅行などを通して仲間と協力して物事に挑戦することの大切さを学びました。この3年間で学んだことはきっとこれからの生活に役に立つことでしょう。

学校生活を楽しく過ごせるよう授業や行事の工夫をしてくださった先生方、ありがとうございました。授業だけでなく、私たち生徒の悩みを真剣に聞いてくれました。教科担任の先生方の授業はわかりやすく楽しい時間となっていました。授業以外の場面でもたくさんの先生や、職員の皆様に声をかけていただきました。本当にありがとうございます。

そして、何よりも私たちの近くで見守ってくださった保護者の方々、私たちのことを理解し、何があっても背中を押してくれました。そんな保護者の方々には感謝してもしきれません。今の私たちの姿はどのように映っているのでしょうか。未熟だった小学生の頃より成長している姿を見ることができているのでしょうか。これから先も迷惑をかけてしまうかもしれませんが、大人になって親孝行できるよう成長していきます。そのような姿を傍で暖かく見守っていただけたらと思います。

今、私たちはこの場所で学んだことを忘れずに、自分たちの夢へと旅立ちます。最後になりましたが、今日という日を迎えられたことに感謝し、卒業生代表の言葉とさせていただきます。

令和7年3月14日

卒業生代表 三国 海鈴